

今回の交換プログラムに際して、お互いに現場に立つことができないという両者共通の困難な関係性を指し示すとともに、それぞれの作品のあらゆる場面に見出されるあいまいさの表れを、同時に示す言葉として、私は過去に一度使ったことがある「庭の向こう側」という言葉を思い出した。この言葉はある絵画をヒントにしている。室内の様子と窓越しに見える外の風景、手前には人の手の入った庭の様子が見え、その向こうには自然の風景がある。私はこの言葉で、人の手の入った庭とその向こうに広がる自然との境界のあいまいさを言おうとされていた。二人のアーティストと、彼らをサポートするアーティストたちは互いに情報を交換することによって、その場にはいないアーティストの作品を制作するという役割を担っている。作品の完成を他者の理解と技術にまかせるという、二人のアーティストにとってはよく分からないものに向かって、身を投げ出すような経験かもしれないが、しかしこれをおもしろいと捉え直しているようなところは、ふたりに共通していた。期せずしてふたりは、境界や関係のあいまいさを作品のテーマとして取り上げているが、これは今回のようなリモート制作というプロセスを考えたとき、決して偶然そうだったということではなく、必然の結果だったような気がする。

黄金町エリアマネジメントセンター 事務局長

山野真悟